

「サステイナブル」で「enloop」イベント開催

サイクラーズが Green propとコラボ リメイク家具の展示即売会実施

サーキュラーエコノミーを追求するサイクラーズ（東京都大田区）と、そのグループ会社でリユース品の流通プラットフォーム「RESEARCH ACO」を手掛けるトライシクル（東京都品川区）は、10月28日〜11月1日の5日間、循環をテーマとしたリメイク家具の展示販売会「RooM enloop oasis」を開催した。今回会場となったのは、企業の廃棄物管理に関するワンストップサービスなどを提供するGreen prop（福岡市）の東京支店で、内外装に古材等を活用した「GREEN PROP SUSTAINABLE BUILDING」（東京都港区、通称・サステイブル）。「持続可能な循環型社会」を目指す2社の、デザインによるコラボが実現した。

サイクラーズでは廃棄予定の家具、まれ変わらせる。デザインの方によりモノの価値を蘇らせる「Re・MAKE（リメイク）家具」ブランドenloop（エンループ）の運営を行っている。enloopは現在、美術大学出身のデザイナー3人により運営しており、今年2月に商標登録完了したことを受け、「新品よりも、ずっといい」をテーマに、ブランドとして新たに始動した。廃棄となりめぐってきた家具を、デザイナー一人ひとりがデザインし、新たな価値を与えることにより、暮らしに寄り添った、大量生産型の家具とはまた一味違うユニークなRe・MAKE家具へと生

1号となった。今回のイベントでは、サステイナブルが田町にある古材等を利活用したスペースであり、木材やグリーンに囲まれたオフィス街のオアシスを連想させるため、「oasis」をテーマとし、日々の忙しさを忘れ、リメイク家具がもたらすくろぎとトキメキを感じることが出来る空間となった。また、10月31日には端材を使用したワークショップも開催された。

今回のイベント開催に至った経緯について、サイクラーズの山田晃一取締役は、「もともと廃棄物関連事業で取引があり、当社の営業からenloopの展開の中でも一緒にできないかという声があり、サステイナブルのコンセプトを聞いてぜひやりたいということをお願いし、実現した」と話す。また、Green propの森松知昭取締役は、「東京支店の一階をコミュニティスペースとして開放していきたいと考えていた中でお話をいただき、実際の活動を見て感銘を受け、ぜひ使ってほしいと思った」とする。「持続可能な資源循環型社会」を目指す両社の想いが一致してのイベント開催となった。

作品を制作したサイクラーズ・デザイナーで入社3年目の三谷薫子さんは今回の会場について、「昔の蔵戸を扉の一部として使っていたり、どこどこに古材を使っていたりとこだわりが感じられ、ぜひここに作品を置かせてもらいたいと思う」と話す。2年目の島田ちひろさんは「これまではギャラリーの一角や商業施設などでイベントを行って来たが、今回の会場はコンセプトや想いが一緒で、空間全部が一致すると感じた」とする。1年目の東條鈴菜さんは、「古材を使って雰囲気のある建物だったので、自分の作品も木の雰囲気を活かすことなどを心がけた」としている。

今回のイベントの特徴について「これまでは作品の数で場所を決めることが多かったが、今回はまず会場を見てそれに合う家具を作っていた。また、新たな試みとして作品ごとにデザイナーの名前を明記した。個人を打ち出しながらも、全体の空間としてはまとまりがある、という形に仕上がった」と三谷さん。周辺からの注目も大きかったようだが、両社は今後もコラボイベントなどを企画していきたい考えだ。



Green prop「サステイナブル」で展示販売を行ったサイクラーズのデザイナーたち（左から三谷さん、東條さん、島田さん）



三谷さんの作品



東條さんの作品



島田さんの作品